

城北まちづくり通信

2021/5/27

14号

城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

「アウトリーチ」という用語をご存じでしょうか？

福祉分野では、「支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけて情報・支援を届けるプロセス」のことを言います。

先日、開催した「城北まちづくり協議会 通常総会 議案書 説明会」(5月21日)で、出席者の意見に答えて、地域福祉課長の梶氏から説明を受けた用語です。

鳥取市では、現在、**重層的支援体制整備事業**を進めようとしています。

これは、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制(窓口)で受け付けた、複合的な課題を持った家庭からの相談や各分野の制度に当てはまらない“制度の狭間”の相談などに「**断らず受け止め、つながり続ける支援体制の構築**」を目指すものです。鳥取市全体の支援機関が、チームとして包括的に相談者(利用者)の支援にあたる体制をつくり、属性を問わない包括的な相談支援を目指しています。

同時に、「参加支援」、従来の福祉の枠を越えた「**地域づくりに向けた支援**」の3つの支援を、一体的に実施しようとしています。モデル事業では、アウトリーチの手法で、「しゃべり場」で発せられたSOSを受け止め、支援につなげる取り組みを目指しています。

地域課題：「丸山橋の架替要望」・・・進捗状況 (報告)

“歩道(丸山交差点～サンマート間)の拡幅と丸山橋の掛替”について、平成26年度から城北地区として要望してきました。皆さんもご存じのように、歩道幅が狭く、ガードレールもありません。大変危険な状況が続いています。

先日(5月19日)、鳥取県土整備事務所(計画調査課)から、事業化に向けての進捗状況の説明を受けました。



結論から言いますと、「該当区間は大きな交差点が近接」・「沿線に住宅・事務所等が存在」し制約条件が多く、また、技術的にも難しいということでした。

丸山橋は昭和33年に建設され、橋梁が河川内に設置してあります。現在の新設基準では、橋梁を河川内に設置できないため、1.7mかさ上げする必要があり、交差点からの傾斜が6%になるとのことでした。この条件で新設すると太鼓橋(錦帯橋)のようになり、橋の手前から前方が

見えない状態で、境港の“べた踏み坂”(6.1%)と同じ傾斜になるのだそうです。

また、傾斜を低く抑えようとする、小学校付近からのかさ上げ工事が必要で大規模となり、建設費が数十億円に膨れ上がることが想定され、現在、検討中とのことでした。命は金には換えられないことを強調しましたが、事業化を期待していただけに、出席者からは“ため息”が漏れていました。